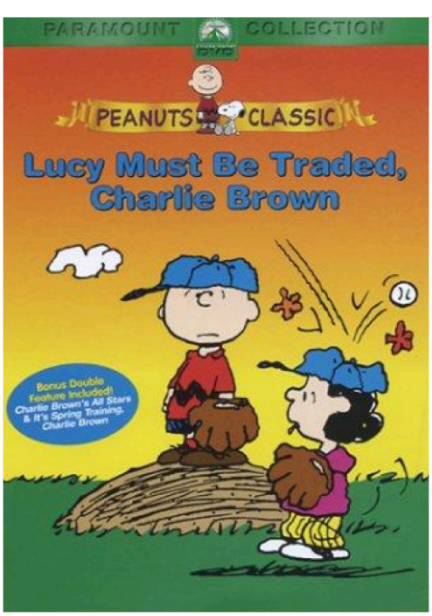
八王子市立第三小・第四小・第十小学校

放課後子ども教室　囲碁教室だより

81 号　2023 年 6 月

編集　成田　滋　shigerunarita@gmail.com
ブログ　https://naritas.jp/wp1/
八王子囲碁連盟　https://hachigoren.com



◆ 6 月の放課後子ども囲碁教室の日程

- **第三小学校**：6 月 6 日、13 日、20 日、23 日、27 日
  毎週火曜日　2 時 30 分～　四階 家庭科室
- **第四小学校**：6 月 5 日、12 日、26 日
  毎週月曜日　1 時 30 分～　二階 ひらめき教室
- **第十小学校**：6 月 2 日、9 日、16 日、23 日、30 日
  毎週金曜日 2 時 30 分～　一階 家庭科室

◆ 子どもと大人が一緒に楽しめる漫画

ピーナッツ(Peanuts)

世界上で親しまれている漫画が「ピーナッツ」というアメリカンコミックです。主人公はチャーリー・ブラウンという男の子。彼は他者への思いやりは人一倍強く、忠誠心が強く決断力があり、ちょっと気まぐれなところもあります。献身的な野球のマネージャーでもあり、あきらめるべきときでも、決してあきらめない頑固さも備えています。

その飼い犬であるスヌーピーは、今も人気は高いです。ビーグル犬のスヌーピーは、実は可愛いだけではなく、どこかゆる～くのんびりと朗らかなイメージで周りを癒し、犬ながら深い名言をたくさん残しています。チャーリー・ブラウンは愛犬スヌーピーの世話に関してはとても責任感があります。彼は、もともと親切で忍耐強い性格で、自分の心を無にするかのように他人を助けるのが好きなのですが、自分自身はどうにもならないという性格です。

「ピーナッツ」は、チャールズ・シュルツという作家が台詞も絵も書き、毎日曜日の新聞に掲載されたコミックです。1950 年から 2000 年まで連載され、75 カ国で約 3 億 5,500 万人の読者を獲得し、21 カ国語に翻訳されたというのですから、大ヒット漫画です。

「ピーナッツ」には大人はほとんど登場しません。幼い子どもたちのコミュニティだけに焦点を当てています。主人公のチャーリー・ブラウンは、おっとりとして、繊細な性格を有していますが、自分にあまり自信がありません。凧を揚げることも、野球に勝つことも、いらいらしがちな友達のルーシーが持っているサッカーボールを蹴ることもできません。いつも最後の瞬間にドタキャンされるのです。ですがそのユーモアは心理的に複雑で、登場人物の相互作用や関係性によって描かれます。

チャーリー・ブラウンはスヌーピーの飼い主であり、妹はサリー。両親はいるようですが、他の大人と同様作中には姿を見せません。親友は毛布を片時も手放さないライナス。級友であるルーシーにいつも小煩く言われたり丸め込まれたりします。チャーリーという名前から、読者からはよくチャールズ・シュルツの分身と思われたようです。

ただ、シュルツはインタビューで「チャーリー・ブラウンは僕自身でもあるんだ」と答えたことがあるようで、彼の持つ気苦労などがチャーリー・ブラウンに反映されたりすることはあると述懐しています。シュルツの父親は床屋を経営していました。シュルツによればチャーリー・ブラウンはきれいな金髪であるために髪が薄く見えるだけで、丸坊主ではないそうです。実際の作画でも前髪と後頭部の毛が描き込まれ、濡れ髪では実線で描かれています。スヌーピーにいわせれば、主人のチャーリー・ブラウンあくまでも「丸頭の子」でして「禿頭の子」ではありません。

チャーリー・ブラウンは、自他共に認める冴えない人柄であり、とにかく女運が悪く、ヴァイオレットやルーシーなどの女子の「いじめ」相手になっていた時期もあります。考え方にもどこか卑屈なところがあって、敗者や弱い立場の人たちに同情することが多い子です。他者への思いやりは人一倍強く、いつもはチャーリー・ブラウンをいびるルーシーも彼が病気になると落ち着きをなくすのです。「赤毛の女の子」に片想いし、後にサマーキャンプで出会ったペギー・ジーンと恋仲になりますが、いずれも報われないまま終わったり、自分だけバレンタインカードが貰えなかったりします。友達のライナスには好きな女の子を奪われるなど、恋愛運は悪いのがチャーリー・ブラウンです。

◆ 私のブログから

『話の泉一笑い』と題してジョークやユーモアをとりあげています。ピーナッツの漫画も紹介しています。　https://naritas.jp/wp1